

# 新学習指導要領を実施してみた

## － 学校設定科目を実施してみた －

愛媛県立今治東中等教育学校 清川 正義  
愛媛県立松山西中等教育学校 河野美千代  
愛媛県立宇和島東高等学校 宮田 誠

### はじめに

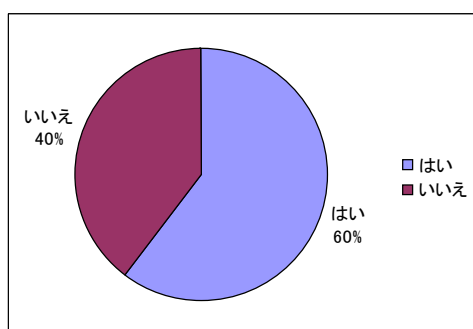
県下の多くの県立学校で、学校設定科目が実施され始めて2年目となる。昨年と今年を比べ、各学校でどのような変化があったか、また、実施してみたの効果や問題点を調べるため、アンケートを実施した。県下の学校から幅広いご意見をいただき、より効果的な指導方法への手がかりを探ってみた。

### 1 調査対象

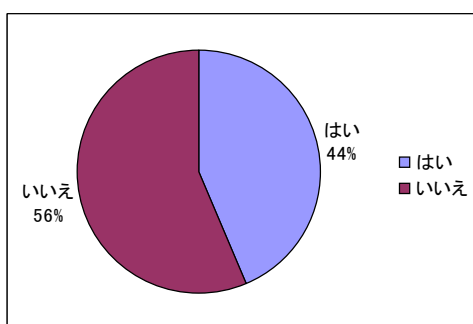
県下の県立高等学校及び中等教育学校で特別支援教育の学校を除く53校で実施。

### 2 実施状況など

#### (1) 学校設定科目を設けていますか？

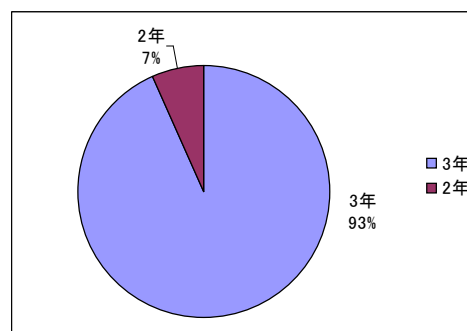


※前年度における上記と同じ質問に対する回答



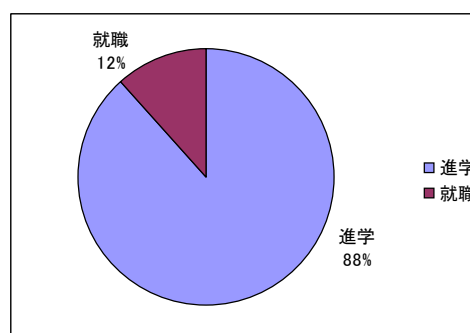
前年度に実施したアンケートにおいて、「学校設定科目を実施している、または来年度実施予定」という回答があった学校が、全体の56%であったが、今年度実際に実施している学校はさらに増加している。

#### (2) 実施している学年について



3年での実施が多いようである。前年度と比較して、新たに3年で実施している学校が増えている。2年において実施している学校も数校あった。

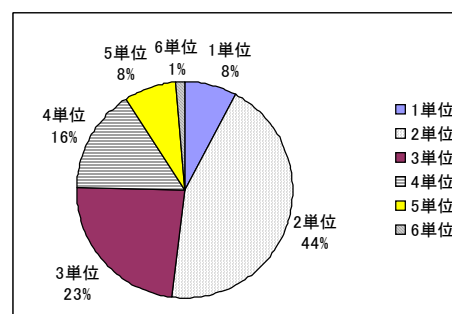
#### (3) 主な実施目的について



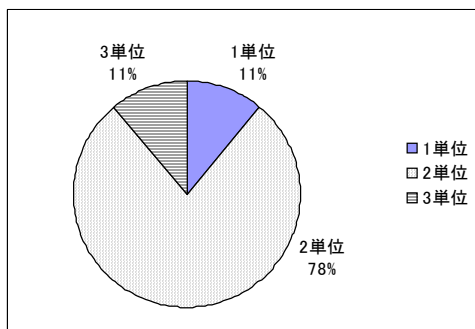
ほとんどが進学に関する類型、コースで実施されていた。中でも普通科理系、文系の割合が高く、全体の9割を占めていた。また、就職に向けての取り組みとして、専門学科において3年で設定科目を設けている学校もあった。

#### (4) 実施している単位数について

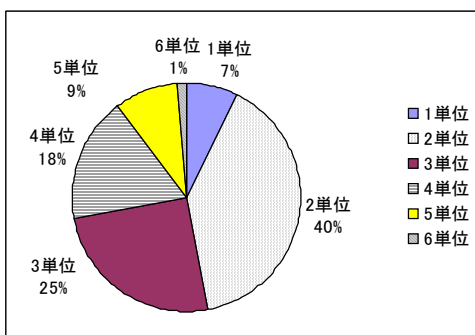
##### ア 全体



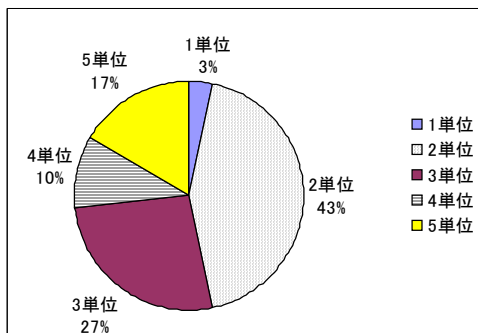
イ 主な目的が就職



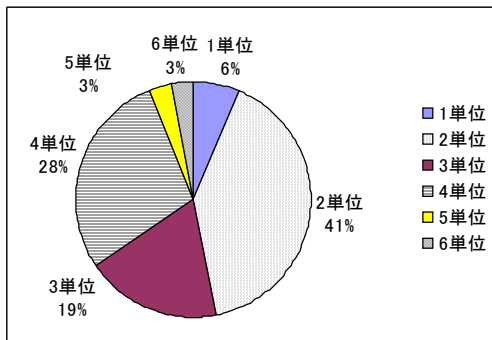
ウ 主な目的が進学



エ 3 学年文系



オ 3 学年理系



全体を見てみると、2、3単位で実施している学校が7割を占めていた。また、就職に向けて設定科目を設けてい

る学校は2単位が8割弱にも上っていた。進学に向けて実施している学校においても、2、3単位が多いようである。

進学を主な目的としている中でも、割合の多かった3学年文系と3学年理系については、さらに考察を行った。理系については、数学Ⅲ・Cを履修するかしらないかによって、大きく1～3単位実施、4～6単位実施に分かれているようである。文系においては2、3単位で実施している学校が理系よりも多く、選択科目としている学校も数校あった。また、文系理系共に、2科目履修することにより、5単位（3単位+2単位）、6単位（4単位+2単位）と実施している学校もあった。

(5) 実施によって得られた効果について

- 生徒の実態に応じて総合的に指導をすることができ、進路実現に役立った。
- 学科、類型別などに適した内容で指導ができ、実態にあった授業ができた。
- 基礎、基本の確認から、受験指導まで幅広い内容を扱うことができる。
- 数学ⅠAⅡBの発展的な内容ができるようになった。
- 科目に関係なく、必要に応じて融合問題も指導することができ、受験指導を行いやすかった。
- 数学が苦手な生徒でも取り組める内容も含まれているので、授業への参加姿勢がよくなった。
- 小中学校の復習および就職試験への指導が行いやすくなった。
- 総復習を時間をかけてすることができ、受験指導に適していた。
- それぞれで目的意識をはっきりとさせた指導が行いやすくなった。
- 基本事項の確認ができる。
- 理科と関連付けることにより、数学の興味を引きやすくなった。

基礎基本の定着や、総復習をさせる面などにおいて、大きな効果が得られたという意見が多かった。また、数学ⅠAⅡBの融合問題や発展問題に取り組むことができた、数学の興味・関心を引きやすくなったという意見もあった。

2 学校設定科目を実施してみたのメリットや問題点、改善点について

(1) メリット

- 生徒の実態に合わせた指導ができる。
- 社会生活上での基本的知識を復習し、社会に出て行ける。
- 生徒の実態に合わせて、苦手分野の集中指導ができる。
- 中学校での既習内容なども取り入れて指導することができる。

- ・ 理科との関連性をはっきりさせ、数学の何の知識が必要かを意識させながら学習ができた。
- ・ 生徒の多様な進路に対応した授業内容を実施しやすくなった。
- ・ 数学ⅠAⅡBを横断した総合的な問題演習ができる。
- ・ 単位数の設定が自由にできる。

## (2) 問題点・改善点

- ・ 進学、就職の際、科目名から学習内容が判断しにくいいため、どう取り扱われているか不明である。
- ・ 教材作成に手間がかかる。
- ・ できれば内容の充実した市販の問題集を使用した。
- ・ 準教科書の作成・印刷などが大変であった。
- ・ 練習問題を別冊で作成すべきか検討中である。
- ・ 各分野における問題数を増やすか検討中である。
- ・ 面接で学習内容を問われた。
- ・ 学習指導計画が立てにくい。
- ・ 毎年生徒の実態にも違いがあり、準教科書の編集内容をそのまま使用できないこともあるので、その都度内容の精選が必要となる。
- ・ 高教研数学部会編集の数学就職問題集のようなものがメインで使用できると有り難い。
- ・ 2年の段階では進路希望が明確でなく、自分がどの科目を選択すればよいのかわからない生徒がいる。
- ・ 教材については、問題の量質に改善の余地があるので、今後より研究を続けていきたい。

## (3) 学校独自に工夫している点

- ・ 生徒の進路希望に応じた講座編成を年度ごとに検討している。
- ・ 問題を精選し、繰り返し解かせて確実に理解させられるよう努力している。
- ・ 生徒の実態にあわせた指導を行っている。
- ・ 各類型(コース)の進度に合わせて内容を検討し、教材を作成した。
- ・ 通常の例題や問題を穴埋め形式に編集し直して、できるだけ多く導入する。
- ・ 選択科目を多くし、少人数制講座を開講している。
- ・ 一つの教科内ではなく、他教科にまたがり、それぞれの教員が情報交換をしながら行っている。
- ・ 年度初めにシラバスを使って1年間(または2年間)の授業内容を生徒に説明している。
- ・ 年間計画に基づいて、計画的に実施している。

学校設定科目の利点として多くあげられたのが、「生徒の実態に応じた指導ができる、基礎基本の定着を図る、数学全般の総復習ができる」などであった。問題点・改善点

として一番多かった意見が、「準教科書の作成、問題の精選」であった。また、科目名から学習内容が判断しにくいという点もあり、シラバスなどを利用して、生徒たちに授業内容の説明をする必要があると思われる。

## 3 準教科書について、各学校において工夫している点

- ・ 各単元の導入に、理科と数学を関連付ける問題を載せており、生徒の興味・関心を引く内容である。
- ・ 中学校での既習内容も取り入れ、高校数学に対する理解を深めやすい内容である。
- ・ 難易度に応じて4つに分かれており、習熟度に応じたきめ細かい指導ができる内容である。
- ・ 「公式や解く手順、穴埋め問題、書き込み式の問題」の三段階に分かれており、段階を追って学習ができる。また、問題の裏が解答となっており、見やすく構成されている。
- ・ A4サイズで見やすく、解答スペースも広くとっており、解きやすい構成になっている。

## 4 まとめ

前年度と比べ、学校設定科目を実施している学校は増加していた。生徒の実態に合わせた指導をしていく上で、一つの単元、あるいは教科のみにしぼられるのではなく、数学全般を取り扱うことができ、他教科とも関連付けることができるという点では、有効だと思われる。しかし、その一方で、準教科書の作成が大変であるという声が多く聞かれた。

前年度と同じように、準教科書の作成、精選については、大変な苦勞が伴っていると思う。しかし、学校設定科目を設けることによるメリット多くあると思う。それは、生徒の実態に応じて、数学という教科を生徒の進路実現のために生かすだけでなく、広く知識を得ることにより、自らの思考を振り返りながら物事を論理的に考える力を養い、社会をよりよく生きる知恵を得ることができるからである。そのためには、生徒にとってより有効的な教材研究が必要であると思う。また、授業中や課題として扱ったプリントなどをまとめ、準教科書の一部として扱うこともできると思う。そのような私たちの努力は、きっと生徒たちの力に変わるはずであると信じている。

最後になりましたが、今回のアンケート調査に対し、お忙しい中ご回答、ご意見をいただきありがとうございます。本研究委員会は今後も研究を重ねていく所存ですので、各先生方の幅広いご意見をお寄せいただけたら幸いです。

## 《参考文献》

- ・『高等学校学習指導要領解説 総則編』  
文部科学省 平成11年12月
- ・『高等学校学習指導要領解説 数学編 理数編』  
文部科学省 平成11年12月